

令和6年度

# 宮崎県学校図書館教育研究大会 県北大会研究紀要

大会主題

「豊かな心と学びを育む学校図書館」



美郷町 御田祭



日向市 クルスの海



延岡市 愛宕山からの夜景



高千穂町 真名井の滝

期 日 令和6年8月8日(木)

会 場 延岡市カルチャープラザのべおか  
延岡市社会教育センター

宮崎県学校教育研究会図書館教育部会

# あいさつ

宮崎県学校教育研究会図書館教育部会  
会長 有田 勝則

この度、県内各地より多くの皆様のご参加をいただき、令和6年度宮崎県学校図書館教育研究大会県北大会を開催できますことについて心より感謝を申し上げます。

さて、今後の学校図書館の活用の在り方につきましては、新学習指導要領総則の中で、「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童・生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童・生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実する」ことがうたわれております。また、特別活動の学級活動の中で、一人一人のキャリア形成と自己実現のために「現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考えたり、自主的に学習する場としての学校図書館等を活用したりしながら、学ぶことと働くことの意義を意識して学習の見通しを立て、振り返ること」と明記されており、自己実現を図る上でも図書館等を活用する重要性がうたわれています。

また、学校においては、このような図書館教育に期待されている役割が最大限に発揮できるようにすることが重要であり、学校図書館が児童・生徒にとって落ち着いて読書を行うことができる、安らぎのある環境や知的好奇心を醸成する開かれた学びの場としての環境として整えられるように努めることが大切であると考えられます。平成28年11月に文部科学省より出された「学校図書館ガイドライン」においても、「学校は、学習指導要領等を踏まえ、各教科等において、学校図書館の機能を計画的に利用し、児童・生徒の主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実するよう努めることが望ましい。」とされ、校長のリーダーシップの下、学校図書館に関する全体計画に基づき、教職員が連携して、計画的・組織的に学校図書館の運営に当たっていくことが求められています。

そのような中、これまで本学校図書館部会では、学校図書館の役割の充実や各校における読書活動の推進に向け、県内各地区で、様々な研究や取組を行ってまいりました。今回の県北大会では、大会主題を「豊かな心と学びを育む学校図書館」として掲げ、6つの分科会を設定し、学校図書館の活用や各校における読書活動の推進、地域や関連機関との連携等の視点から各地区の発表とそれに伴う協議を行います。これらを通して、今後、県内各学校図書館の活用と児童生徒の読書活動の充実がさらに図られますことを心より願っております。

最後に、本大会の開催に当たり、準備や大会の運営にも携わっていただいている開催地区の関係者の皆様、忙しい中、研究を進めてくださった発表者の皆様に心より、お礼を申し上げます。加えて、これまでご指導・ご支援を賜りました宮崎県教育委員会、延岡市教育委員会、日向市教育委員会、その他関係の皆様方に深く感謝を申し上げ、あいさつといたします。

# 令和6年度 宮崎県学校図書館教育研究大会県北大会

1 期 日 令和6年8月8日(木)

2 会 場 延岡市カルチャープラザのべおか(宮崎県延岡市本小路 39 番地 | 電話 0982-34-6549)  
延岡市社会教育センター (宮崎県延岡市本小路 39-1 電話 0982-22-7032)

3 主 催 宮崎県学校教育研究会図書館教育部会

4 後 援 宮崎県教育委員会 延岡市教育委員会 日向市教育委員会 五ヶ瀬町教育委員会  
門川町教育委員会 美郷町教育委員会 諸塚村教育委員会 日之影町教育委員会  
椎葉村教育委員会 高千穂町教育委員会

5 大会主題 「豊かな心と学びを育む学校図書館」

6 大会趣旨

学校図書館は、児童生徒の読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能、学習活動を支援したり授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」としての機能を有している。また、児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」としての機能も有している。さらに、学校図書館には変化する社会情勢を踏まえ、「児童生徒の心の居場所」、「家庭・地域における読書活動への支援」等の機能を果たすことも求められており、「教員の授業改善や資質の向上」の観点からの重要性も踏まえ、学校図書館が果たすべき役割は年々、多様化が進んでいるといえる。

現在、宮崎県は「読書県づくりの推進」を掲げ、行政、地域、図書館、学校、家庭等が連携を図りながら全県的な取組を行っている。

このような中、本研究大会では今後の学校図書館のあるべき姿、読書教育の在り方等について協議を深めることで本主題に迫っていきたいと考える。

7 日程

時間	13:00 ~13:30	13:30 ~13:50	14:05 ~ 16:05	16:05 ~16:15
分	(30)	(20)	(120)	(10)
内容	受付	開会行事	研究発表・研究協議 (休息を含む)	閉会行事
会場	延岡市カルチャー プラザのべおか	延岡市カルチャー プラザのべおか ハーモニーホール	延岡市社会教育センター	延岡市社会教育 センター

8 分科会 (14:05~16:05)

分科	協議題	発表者	司会者	記録者	指導助言者
第1分科会	A 魅力的な学校図書館づくり	加納小学校 教諭 本田妃佐喜	北方学園 教頭 金澤由紀子	北方学園 教諭 松本 沙織	県教育庁北部教育事務所 指導主事 大田川真志
		穂北中学校 教諭 中里美紀			
第2分科会	B 学習情報センターとしての学校図書館の活用	通山小学校 教諭 佐野志織	土々呂中学校 教頭 大石 彰	東小学校 教諭 村田 葵	県教育庁中部教育事務所 指導主事 有田 雅代
		永久津中学校 教諭 松下良子			
第3分科会	C 学校における読書指導	山之口小学校 教諭 梅元杏華	東小学校 教頭 上米良 剛	南方中学校 教諭 舟津 淳子	県教育庁南部教育事務所 指導主事 前田 雅樹
		西岳中学校 教諭 稲元 愛			
第4分科会	D 特別支援教育における読書活動	学校図書司書 多田明子	恒富小学校 教頭 武田啓宏	南中学校 教諭 中田 晃喜	県教育庁北部教育事務所 指導主事 緒方 宏文
		南郷中学校 教諭 外林義朗			
第5分科会	E 学校司書・司書教諭の役割	国富小学校 教諭 河野歩美	西小学校 教頭 島 和	黒岩小学校 教諭 木下奈緒子	県教育庁義務教育課 指導主事 川崎 優也
		広瀬中学校 教諭 有田桂子			
第6分科会	F 地域・家庭・公共図書館との連携	北川小学校 教諭 泉美麻里	東海東小学校 教頭 黒木正大	緑ヶ丘小学校 教諭 甲斐由利子	県教育研修センター 社会教育主事 楠本 将夫
		島野浦学園 教諭 甲斐聖佳			
		宮崎商業高校 教諭 厚地晃子			

【分科会の時間配分】

	進行 説明	発表1 (質疑含む)	発表2 (質疑含む)	発表3 (質疑含む)	休息	協議	指導 講評
第1~5 分科会	14:05~	14:10~	14:35~	/	15:00~	15:10~	15:55~
	14:10	14:35	15:00		15:10	15:55	16:05
第6 分科会	14:05~	14:10~	14:30~	14:50~	15:10~	15:20~	15:55~
	14:10	14:30	14:50	15:10	15:20	15:55	16:05

## 県北大会 発表者一覧

	研究項目・内容	発表者	ページ
第1分科会	「魅力的な学校図書館づくり」 ～各学校における読書指導の実践を通して～	宮崎市立加納小学校 (日向市立財光寺南小学校) 教諭 本田妃佐喜	5～6
	「魅力的な学校図書館づくり」 ～豊かな心と学びを育む学校図書館～	西都市立穂北中学校 教諭 中里 美紀	7～8
第2分科会	「学習情報センターとしての学校図書館の活用」 ～教科の学習内容を深めるための 学校図書館利用を通して～	川南町立通山小学校 教諭 佐野 志織	9～10
	「学習情報センターとしての学校図書館の活用」 ～学習情報センターとしての学校図書館の活用～	小林市立永久津中学校 教諭 松下 良子	11～12
第3分科会	「学校における読書指導」 ～学校における読書指導を通して～	都城市立山之口小学校 教諭 梅元 杏華	13～14
	「学校における読書指導」 ～1年間を見通した計画的な読書指導を通して～	都城市立西岳中学校 教諭 稲元 愛	15～16
第4分科会	「特別支援教育における読書活動」 ～競い合う読書から認め合い・学び合う読書へ～ Well-being 特別支援教育の視点で、 学校図書館の機能をONにする	(株) 共立ソリューションズ 学校図書司書 多田 明子	17～18
	「特別支援教育における読書活動」 ～特別支援教育の視点に立った読書指導の充実～	日南市立南郷中学校 (日南市立北郷小中学校) 教諭 外林 義朗	19～20
第5分科会	「学校司書・司書教諭の役割」 ～図書主任の役割と学校司書との連携の在り方～	宮崎市立国富小学校 教諭 河野 歩美	21～22
	「学校司書・司書教諭の役割」 ～図書主任の役割と読書活動アシスタント との連携の在り方～	宮崎市立広瀬中学校 教諭 有田 桂子	23～24
第6分科会	「豊かな心と学びを育む学校図書館」 ～地域・家庭・公共図書館との連携を通して～	延岡市立北川小学校 教諭 泉美 麻里	25～26
	「豊かな心と学びを育む学校図書館」 ～地域・家庭・公共図書館との連携を通して～	延岡市立島野浦学園 教諭 甲斐 聖佳	27～28
	「地域・家庭・公共図書館との連携」 ～「本」に関わるボランティアを通して～	宮崎県立宮崎商業高等学校 教諭 厚地 晃子	29～30

## 第4分科会「D 特別支援教育における読書活動」

### 「競い合う読書から 認め合い・学び合う読書へ」

～Well-being 特別支援教育の視点で、学校図書館の機能をONにする～

日南市学校図書司書 多田 明子

#### 1 はじめに

「海幸山幸」の神話を、今も伝える鵜戸神宮と潮獄神社。光きらめく日南海岸。美しい杉林の中にたたずむ饂飩の城跡。明治の偉人小村寿太郎侯を育んだ「歴史と文化のかおる都市」日南市の人口は、現在、約5万人。本市には、小学校12校、中学校6校、小中一貫校3校が設置されており、我々、学校図書司書は、各校を週に1回、もしくは2週間に1回、訪問勤務し、業務に携わる。司書4名で一人6校ずつ担当。包括業務委託先の社員として、本年度7年目を迎える。毎日の勤務ではないため、司書不在でも、図書館の機能を持続的に保持できる、有機的な図書館づくりを目指し、研究と実践を重ねてきた。

#### 2 主題設定の理由

“Well-being”あなたは、生きている。ただそれだけで、価値がある。きらきらと輝くまなざしで、自らの課題と向き合い、明るい未来を設定して、しなやかに生きていく力。学ぶ喜びを感じながら、自分の人生と幸せを創り出していく、豊かな心。それらを育てていくには、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が、必須である。宮崎県が推進する『ひなたの学び』（ひとりひとりが問いをもち、なかまとなって、学び合い、たかめよう深く考える力）には、この「個別最適な学び」と「協働的な学び」が凝縮されている。「ひとりひとりが問いをもち、なかまとなって学び合い、高め合う」場所としての学校図書館。個々の課題に対応できる「ユニバーサルな学びの場所」としての学校図書館の本来の機能を、十分に生かせれば、「読書」と「読書活動」を通して、“個々の感性”を認め合い、それを、“特性”へと磨き上げていける場所ともなり得る。そこで、多様なニーズに応えられる「デザイン・フォア・オール」「ブック・フォア・オール」の図書館を創ることが、ひいては、『ひなたの学び』の“KEY STATION”になる最善の道だと考え、本主題を設定した。

#### 3 研究目標

人は、誰もが特別な存在である。学校図書館は、その「学びに向かう」特別な一人一人の子どもの力を育む“KEY STATION”である。共に認め合い、学び合う場所(多様性を包み込む、ユニバーサルな場)として機能する、充実した学校図書館づくりを目指す。

#### 4 研究の仮説

「競争」から「共創」へ。「みんなで創る学校図書館」を合い言葉に、現代の子ども達に不足していると言われる「空間・時間・仲間」の「三間」を創ることができれば、学校図書館は、多様なニーズに応え、共に学び合うことも可能とする『ひなたの学び』を具現化できる“KEY STATION”となるであろう。

#### 5 研究の実際

##### (1) 空間をつくる ～スペースを創る～

① 配置・配架 『ユニバーサル仕様(館内動線の工夫)』

② 蔵書資料の再構築 『除籍・刷新(循環)』

③ アートの力(いやしセンターとして) …… 情報の精選と統制(視覚的・聴覚的)

饂飩小学校では、上記3点を意識した“「であいの森」図書館 おび小 MEDIA COSMOS”を令和4年度、全校の協働体制のもと、創った。我々は、この図書館をモデルにしなが、饂飩中学校・吾田中学校の図書館を、令和5年度末から、ユニバーサル仕様の空間へと変えていった。

##### (2) 時間をつくる ～構造化(ルーティン化)の考え方を取り入れた、スキルの育成～

① 図書館オリエンテーション

年度当初に、その学年に応じた「オリエンテーション」を国語科の授業において、司書がゲスト・ティーチャーとなり、実施し、図書館活用のスキルを向上させた。

## ② ブック・タイム

大窪小学校では、毎週金曜日の朝を「ブック・タイム」として、設定している。司書来校日には、司書がよみきかせやブック・トークを行い、そうでない日には、児童が、お互いに本を紹介し合う「アウトプット読書」に取り組んでいる。これらの読書活動の後には、貸出・返却の時間も設けており、児童は、毎回3冊の図書を借りていく。毎週1回の時間を設定しているので、本校の（学校図書館）年間貸出冊数は、毎年一人平均100冊前後となる。加えて、本校には、市立図書館の移動図書館車「たいよう号」も、2週間に1回訪れ、児童は、市立図書館の企画「旅する読書」にも、積極的に取り組んでいる。このような時間や機会を確保することは、「本の貸し借り」スキルアップにも、つながっており、読書習慣の確立にも大いに有効である。

## ③ 1バッグ・1ブック

吾田中学校では、4年前から生成り色の小さな手提げ袋を入学と同時に購入し「ブックバッグ」として、使用している。5月の「図書館オリエンテーション」から使い始め、いつも自分の机の横に携えておく。「朝読」や「隙間時間」には、そのバッグから本を取り出し、読書に親しんでいる。また、1年次の「美術科」の授業では、その袋に各自の名前をレタリング。「ブックバッグ」を愛用している姿は、まさに、宮崎県が推奨する「1 BAG・1 BOOK」そのものである。学校全体で取り組む時間の共有化は、ユニバーサルな学びの場としての「読書活動推進」に功を奏している。

## (3) 仲間をつくる ～本との出逢いの場を創造し、友と語らう場を創る～

### ① よみきかせ 『五感をくすぐる絵本たち、そして、「語り」の力』

- ア 昔話（神話）
- イ 季節に応じた資料
- ウ セラピー絵本

### ② インタクション活動（合理的配慮を有した） 『アクティブ・ラーニング』

- ア ファミ読（うちどく）カード
- イ リモートでビブリオバトル（紹介）極意書
- ウ 昔話で読書ビンゴ（昔話クイズ）

### ③ ブック・トーク

『テーマで広がる読書の世界』

- ア 支援学級・交流学习での取組



昔話（神話）……鶴戸でのよみきかせ

## 6 成果と課題

### (1) 成果

- 今回の「特別支援教育の視点で」という研究テーマをいただいたことで、日南市内の全小中学校の先生方とともに、各自が各校の現状を把握し、情報を共有し、考える場がもてたこと、また、各校の学校図書館が課題意識をもって、その改善策に取り組めたことが、一番の成果である。
- “「であいの森」図書館 おび小 MEDIA COSMOS”をモデルとして、「ユニバーサルな学びの場所」としての空間と時間の創生が、様々な方々とチームを組み合わせながら、できている。
- インタクション活動では、「読書を通じて、このような“交流活動”ができて、よかった。」という生徒の感想から、共に学び、高め合う「仲間」創りの場が、最適な方法で提供できた。

### (2) 課題

- 「読書の楽しさ」や「読書活動の面白さ」を、まだ体感していない子ども達に、どんな空間で、どの時間に、どの本を、どのように手渡していくか、更に研究と実践を重ねていく必要がある。
- 各校の先生方との情報共有や、共通理解を行う場を、今後増やしていく必要を感じている。

## 7 おわりに

「海幸、山幸、人幸。日南には、三つの幸がある。」

人こそ、資源。海幸山幸に恵まれた、この豊かな風土。日南市。そこで、すくすくと育まれる感性。人を育てるとは、“感性”を育むことではなからうか。人は、誰もが特別な存在である。我々は、その特別な一人一人の子どもを育む“KEY STATION”としての学校図書館を、有機的に創造し続け、“感性豊かな”子ども達とともに、学ぶ喜びと幸せを共有しながら、その成長を支援していきたい。

## 第4分科会「豊かな心と学びを育む学校図書館」

### ～特別支援教育の視点に立った読書指導の充実～

日南市立南郷中学校 教諭 外林 義朗

#### 1 はじめに

日南・串間支部は、小学校（日南市12校、串間市9校）、中学校7校（日南市6校、串間市1校）、小中一貫校3校（すべて日南市）の合計31校で構成されている。今年度の県大会における発表項目が「特別支援教育における読書活動」となっていることを受けて、昨年度より上記の研究主題等を設定し、以下に述べる研究内容で取り組んできた。

#### 2 主題設定の理由

児童生徒が豊かな心や学びを育むためには、言語能力の育成が重要である。その言語能力の育成には読書活動が不可欠である。特に、障がいのある児童生徒においては、障がいの特性に応じた「読書環境の整備」や「読書習慣を形成させる取組」が重要である。また、令和元年6月には、障がいの有無にかかわらず、すべての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられるように、「読書バリアフリー法」が成立し、障がいの有無にかかわらず全ての国民が読書を通じた豊かな生活の推進が加速していくことが予想される。そこで、障がいのある児童生徒を含めた全ての児童生徒が進んで読書に親しみ、豊かな心と学び育むことができるようなユニバーサルデザインの視点に立った取組が必要であると考え、本主題を設定した。

#### 3 研究目標

各学校において、全ての児童生徒が進んで読書に親しむようなユニバーサルデザインの視点に立った「読書環境の整備」や「読書習慣の形成の取組」の実践と共有を行うことで、各学校において特別支援教育の視点に立った読書活動の充実を目指す。

#### 4 研究の仮説

各学校が全ての生徒が進んで読書に親しむような特別支援教育の視点（ユニバーサルデザインの視点）に立った「読書環境の整備」や「読書習慣の形成の取組」を実践及び共有していけば、児童生徒は進んで読書に親しみ、豊かな心を育むことに繋がるであろう。

#### 5 研究の実際

##### (1) 本地区内における特別支援教育の視点に立った読書指導等の実態把握

研究を進めるに当たって、まず本支部における特別支援教育の視点に立った読書指導等についての実態を把握するために、地区内の全学校を対象にアンケート調査を実施した。以下にその結果の一部を示す。

##### ① 特別支援学級における読書活動の課題

特に中学校では、教科指導に関連した図書の購入をしても活用が少ない。さらなる広報が必要である。また、いわゆる基礎学力の向上とタブレットの活用のため、朝の読書活動がなくなってしまった中学校も少なくない。小学校と比べ、読書の時間自体が減ってきている。

##### ② 特別支援学級における授業以外の読書活動

十進分類表にこだわらず、各学校の実態に合わせて本の配置を工夫した学校もある。例えば、「おすすめの本」の表紙が見えるような配置で書架を活用したり、入り口から本棚すべてが見渡せる配置の工夫をしたりもしている。

##### ③ 考察

特別支援学級においても、図書司書との連携や図書館の利用など、通常の学級と同様の読書活

動に取り組んでいる。しかし、そもそも文字を読むことが苦手であったり、一人一人のニーズが様々であったりするため、そうした課題解決のために各学校が試行錯誤を繰り返している。「読書環境の整備」に比べ「読書習慣の形成の取組」が弱いのではないかとと思われる。

## (2) 読書環境の整備

### ① 読書意欲を喚起するための工夫

- 書籍紹介のコーナーの設置・古典文学や近代の著名な小説文をコミック化したものの導入・気軽に立ち寄れる図書館環境の工夫。
- 各種イベントの工夫（文豪の写真をクラスで完成させる・読み聞かせや本の紹介の工夫）

### ② 特別支援学級担任との連携

- 書籍紹介の充実と授業における図書館の活用。

### ③ 家庭との連携や情報発信

- 読みやすい本の購入（ルビ付きの本・日本語版の絵本と英訳本を並べての配置）。
- 紹介したい本をテーブルに平置きし、関心を高める。

## (3) 読書習慣の形成の取組

### ① 読書指導の充実

- 小学生や特別支援（知的）学級への読み聞かせ・図書司書によるアニメーション。
- 複数校によるビブリオバトルの実施。  
※ 国語科の指導による読解力の底上げ（短文作り・視写）

### ② 児童生徒による学校図書館運営

- 図書委員による企画の工夫（ポップコンテスト・人気図書アンケートの活用）  
※ 本文を一部引用し、掲示することで、本への関心を高める。

## 6 成果と課題

### (1) 成果

- 各校の実践を地区で共有することにより、読書環境の整備が格段に進んだ。
- 教科担任との連携が増えるにつれて、特に美術・音楽・理科に関連した図書が充実した。
- 貸出数の変化はあまりなかったが、閲覧のために来館する生徒が増えてきた。
- ルビ付の文章を視写したり、書籍の文章を書き写したりすることで、支援学級の生徒の読書意欲が高まった。

### (2) 課題

- 図書購入の予算に限りがあるため、蔵書数や内容の充実に関しては各校でまだ差が見受けられる。
- ルビ付の文章を読んでも内容の理解が進まない生徒が一部にいる。中学校の現場でも、読み聞かせ等の充実が必要だと思われる。
- 国語科と連携する場合、年間指導計画への位置づけ等の調整が必要である。生徒の実態に応じて、より多様な方法を模索する必要がある。

## 7 おわりに

今回の研究を通して、視写つまり「書き写すことによる読書」の効果が認められた。視写は、視覚を通して言葉を認識する営みである。視覚より聴覚に頼って学習することが多い生徒にとっては、視写より読み聞かせ等の手立てが有効なのかもしれない。だが、従来の読書の多くが黙読を指していたことに、一石を投じることはできた。今後の指導に生かしていきたい。